

## ◆短文をつくろう

<b>1 対象児童生徒（対象学級）の実態</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 中学部 肢体不自由・知的障害</li><li>・ 学習意欲はあるが、語彙が少なく、文章や言葉での表現がやや苦手である。</li></ul>
<b>2 指導目標</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ いろいろなことばを学習し、語彙を増やす。</li><li>・ 画像の人物の様子を見て、動きを表すことばを用いた短文を作ることができる。</li></ul>
<b>3 取組の中心となる教科・領域等</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 国語科</li></ul>
<b>4 使用したアプリ、周辺機器</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ i P a d のカメラ機能、T V</li></ul>
<b>5 指導の経過及び児童生徒の変容</b> <p>〈指導の経過〉</p> <p>指導期間 11月11日～継続指導中</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ i P a d は、文化祭以降に使用し始めたが、教材提示のために用いている。</li><li>・ 毎時間の活動</li></ul> <ol style="list-style-type: none"><li>①時間の初めに、動きを表すことばについてのプリント学習を行う。</li><li>②続いて、生徒が、チームまたは一人ひとりに分かれて、動きを表すことばを含む短文を作り、順番に前に出てジェスチャーで表現したことを、他の生徒が読み取る。</li><li>③ i P a d と T V を使用して静止画像を提示し、その様子を、動きを表すことばを用いた短文にする。</li></ol> <p>〈生徒の変容〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 9月から、動きを表すことばの学習に取り組み始めた。最初の頃は、ほとんど単語も出てこない様子だったが、学習を重ねるごとに、作文や読み取りにかかる時間が短くなったり、作文の文字数が増えたりしてきている。</li></ul>
<b>6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 当初の計画は、たくさんの人物がさまざまな動きをしている国語絵本を、Keynote で加工して T V で提示し、生徒が、質問に答えるというものであった。しかし、事前にプリントで学習してみると絵の動きが理解し難く単語で表現できなかったため、身近な教員が何かの動作をしている静止画像に変更し、短文で表現させることにした。身近な人物であることや、動作が簡単なことで、短文作りに抵抗なく取り組めるようになった。</li></ul>